



©共同通信社

——追悼展示——

中村哲医師の偉業

—アフガニスタンという国で—

中村哲(1946年9月15日-2019年12月4日)。医師(脳神経内科)。アフガニスタンでは**カカ・ムラド**(ナカムラのおじさん)、**カカムラッド**とも呼ばれ、**ドクター・サーブ**(先生様)と慕われてきました。

中村哲医師は、パキスタンでの医療活動を支援する目的で1983年9月、国際NGO(NPO)団体「ペシャワール会」を結成しました。また、PMS(略: Peace (Japan) Medical Services)は、平和医療団・日本総院長として中村哲医師が率いた現地事業体です。

PMSは医療団体ですが、病気の背景には慢性の食糧不足と栄養失調があることから、沙漠化した農地の回復が急務だと判断し、今なお進行する大干ばつのなか灌漑水利事業に重きを置いて活動してきました。現在はダラエヌール診療所での診療活動、農業事業、灌漑事業、訓練所でのPMS方式取水技術の普及活動を行い、中村哲医師の信念を引き継いでいます。

中村哲医師が現地の人々と共有した緑の大地が、地球温暖化による干ばつや終わりのない内戦によって再び砂漠と化し、この地から人々の営みと笑い声が消えることのないよう、世界の皆が考えて欲しいものです。



写真=AFP/アフロ

期間：2020年1月6日～2月29日

場所：聖心女子大学図書館展示コーナー